

なまえ _____

211. 中^{ちゆうでいど}程度^{ごう}の豪雨^{たんじかん}であつたが、短時間^{かくち}であつたために各地^{かわ}で川^{はんらん}が氾濫^{はんらん}したと ()。
212. 書^かい () 消^けし、書^かい () 消^けして、作品^{さくひん}を仕上^{しあ}げていった。
213. 焼^やけ酒^{ざけ}で一升^{いっしょう}ビン^{びん}の酒^{さけ}を飲^のみ干^ほそうと思^{おも}つても、日頃^{ひごろ}飲^のまぬ私^{わたし}では、飲^のん () 飲^のん () なくならない。
214. 早^{はや}く打^うち明^あければ () のに、まだ言^いえないでいる。
215. 疲^{つか}れきつて、ぐっすり寝^ね込^こんでいる () を起^おこされ、機嫌^{きげん}が悪^{わる}くなった。
216. この二^{ふたり}人^{にん}の作^{さつ}家^かは、() もなく中堅^{ちゆうけん}の実^じ力^{りき}派^ぱの名^なに恥^はじない小^{しょう}説^{せつ}家^かであつた。
217. 三^{さんにん}人^{にん}の子^こ供^{ども}た^たち^ちは、思^{おも}い () にこの一^{いち}年^{ねん}の楽^{たの}し^しか^かつ^つた想^{おも}い出^でを日^に記^きに綴^{つづ}つた。
218. 今^{こん}場^ば所^{しょ}は初^{しょ}日^{にち}から二^に横^こ綱^{づな}が () 、やぶれるといふ波^は乱^{らん}続^{つづ}きの幕^{まく}開^あけであつた。
219. 実^じ験^{けん}を数^{すう}回^{かい}繰^くり返^{かえ}したところ、着^{ちや}火^{つか}はする () すぐ^ひに火^きは消^わえることが分^わかつた。
220. この先^{さき}どのようにするかは、() に決^け定^{てい}した法^{ほう}案^{あん}を元^{もと}に検^{けん}討^{とう}するとのことであつた。